

香芝市が目指す子育て環境

香芝市

香芝市は県内でも子どもの数が多く、このため全ての人が、「子どもを生き育てやすいまち」を目指し、協働して子育てできるようワーク・ライフ・バランスの充実の図れる子育て環境が必要であると考えています。子育て世代包括支援センターの拡充を図り、児童が社会的自立ができるまで、安心して暮らせるような生活環境の実現を目指します。

1 基本データ <県記載>

- ・順位は県内市町村の降順
- ・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）

増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
+29.0% (▲6.2%)	1位	+10.5% (▲2.1%)	1位	+18.6% (▲4.1%)	1位

②合計特殊出生率

H20～24年(年率)	順位	対H15～19年(年率)増減	③有配偶出生率 (15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数)	
			H27年	順位
1.57 (1.29)	1位	+0.07 (+0.06)	78.3 (74.4)	6位

④出生数(人)

H30年	⑤年少人口割合(15歳未満)		
	H30年10月	順位	対25年10月増減
684 (8,947)	16.0% (12.0%)	1位	▲1.6%ポイント (▲0.7%ポイント)

⑥子育て世代割合(25～44歳)

H30年10月	順位	対25年10月増減
23.1% (20.7%)	2位	▲5.4%ポイント (▲3.8%ポイント)

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 統計では、母親の就労率は低いものの、今回子育てニーズ調査では母親の就労意欲は高い傾向にある。このため仕事や育児・家庭介護等行いやすい環境整備が必要。
- ② 家庭環境の複雑化により、支援が必要な家庭が増加傾向にあり、親は子どもを「育てにくい子ども」と感じていたり、親自身も精神疾患等を持っている場合、家庭がSOSを発信しづらい傾向にあるため支援の介入が難しい。
- ③ 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援に取り組んでいるが、学童期から18歳未満さらに若者支援へと切れ目なく支援していくことが課題である。

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方(目指していること)

- ① 施策は「地域ぐるみで子どもと子育てを支えるまちづくり」「いきいき子育てできるまちづくり」「子どもがのびのび育つまちづくり」を3本柱に推進。
- ② 重点分野は、妊娠期から子育て期、学童期から18歳未満の児童とその家庭への切れ目のない支援を一体的に行なう為、「こども家庭総合支援拠点」設置を目指す。さらに18歳から概ね40歳までの子ども・若者支援へと切れ目なく支援を繋いで行くことを目指す。

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)に専門性の高い助産師が訪問し、親子の心身の状況や育児環境等の支援を実施。
- ② 4か月児健診で、絵本を通して赤ちゃんのことばと心を育み親子の信頼関係を深めることができるように、ブックスタート事業を実施。
- ③ 専門的な知識を持ったスクールソーシャルワーカーや各学校にスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校の問題に悩む生徒や保護者の相談業務を実施。
- ④ 母子健康手帳アプリによる子育て情報を、最適なタイミングで発信。
- ⑤ 子育て分野、母子分野、教育分野が、定期的な児童虐待受理会議の場を利用して支援家庭の情報共有と支援検討会議を実施。

5 多様な主体による子育て支援の取組

- ① 生後4か月以降、民生・児童委員による家庭訪問として、「赤ちゃん誕生おめでとう訪問」を行い、身近な地域での子育て相談や支援に取り組んでいる。
- ② 民生・児童委員や自治会役員また子育てサークルの方が、地域の公民館等で子育て世代の家庭を対象に様々なイベント行事を行っている。
- ③ 地域のつながりや助け合いの輪の充実のため、民生・児童委員や地域住民主体で実施している「いきいきサロン」等と子育て世代がコラボし、異年齢(高齢者と子育て世代)の交流を多くの地区に広げていけるように地域と協議中。

詳しくは 香芝市ホームページ
<http://www.city.kashiba.lg.jp/>